

授業実施結果の高度な再利用機能を備えた分散型教育システムの開発

大河雄一

東北大学大学院教育情報学研究部・助教

kuri@ei.tohoku.ac.jp

キーワード：遠隔教育，電子黒板，再利用

1. 自分を紹介・アピールしよう！

1975年4月大阪府に生まれました。高校まで大阪に居ましたが普段関西弁はほとんど話しません。その後東北大に進学以来18年間仙台市在住です。

大学での専攻は音声認識システムに関する研究です。D論もこれで書きました。D4になる直前に工学研究科の助手に採用していただきましたが、採用2日目にして肩を叩かれ、2ヶ月後には今の教育情報学研究部に配置換えとなりました（注：誇張が含まれます）。教育情報学研究部は、大学のインターネットスクールを運営するために作られた、大学内で最も小さい大学院です。

参加2回目にして会場幹事ということで、ご迷惑をおかけするかもしれませんが、よろしくお願いします。

2. 自分の研究内容を紹介しよう！

我々の研究グループでは、柔軟に授業計画の変更を行いながら授業を実施するダブルループ教授設計プロセスモデルを提案し、そのモデルに基づき授業を実施するシステムとして共有型電子黒板システム開発を行ってきました。このシステムでは、電子黒板上にマルチメディア教材を貼付けたり、その上にペン入力を用いてアノテーション等の板書描画を行う機能などが提供されています。

授業中に事前の計画を変更して行った行動は、実際の教育現場の状況を反映しているわけですから、何らかの意味を持ち、次回の授業を計画する際に重要な示唆を含んでいる可能性が高いと思われます。そこで授業で実施した結果を再利用し、次回の授業で教材として利用する方法を考えることにしたのがこの研究の発端です。

実際には、板書内容の教材としての再利用、それを実現するための分散型教育環境をAdobe Flashを使ったWebシステムとして作成しようとしています。ゆくゆくは、iPad等のデバイスでも動く様なものを作りたいと思っています。

3. 教育支援システムを提案しよう！

iOSやAndroid端末に付いているカメラで撮影した画像をその場で簡単に切り抜き、トレーディングカードにしてくれるアプリ、およびそのカードで対戦を行うシステム。その撮影したモノについて詳しく調べるほど、カードのランクが上がり強くなるゾ！